

新しい社会システムデザインに向けた情報基盤技術の創出
2018 年度採択研究者

2020 年度 年次報告書

須藤 克仁

奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科
准教授

次世代言語生成のための生成文評価基盤

§ 1. 研究成果の概要

機械翻訳をはじめとする計算機による言語生成において、生成文によって伝達される内容の正誤を評価するための技術基盤の確立を目指し、これまでに分類型人手評価基準の作成とデータセット整備、および自動評価手法の研究を進めてきた。2020年度もこれらの研究を継続して実施し、①前年度に考案した機械翻訳自動評価手法の追加検証、②本研究で構築している人手評価データセットの詳細な分析と一部公開、③評価対象訳文のみを用いた評価値推定を通じた従来型評価手法の問題の検証、④負例自動生成に向けた予備検討、⑤日本語や機械翻訳以外のタスクを対象としたデータセットの追加整備を行った。

①に関してはその一部が自然言語処理の最難関国際会議 ACL2020 のショートペーパーとして採択された。②③④については国内大会での発表を行った。

【代表的な原著論文情報】(最大 5 件)

- 1) Kosuke Takahashi, Katsuhito Sudoh, Satoshi Nakamura, “Automatic Machine Translation Evaluation using Source Language Inputs and Cross-lingual Language Model, ” Proceedings of the 58th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics, pp. 3553–3558